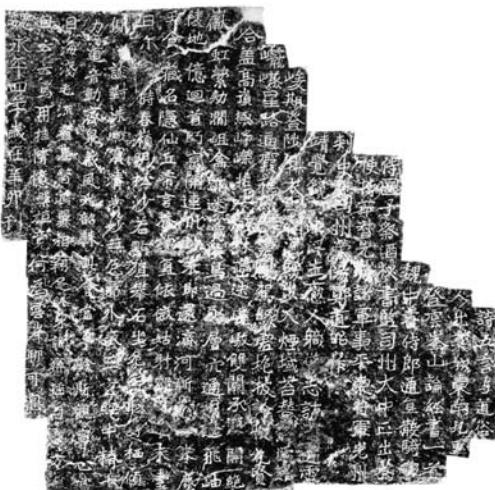


図版②「論經書詩整拓本」



ろん　けい　しょ　し
「雲峰山摩崖刻石」の二

永平四年(511)頃
(北魏時代)

雄大な摩崖刻石⑦

木雞室

木雞室
伊藤 滋

図版③

生した地震によるものであ
ろう。刻された当時は、恐
らく垂直に文字が並んでい
たことであろう。「鄭羲下
碑」に比べて文字が大きく、
破損も少なく、さらに点画

が鮮明であり、鄭道昭の書
風を学ぶには、最も優れた
作品である。全体の書風を

観察すると、巻頭から中央
の十行目までが非常に伸び
やかで雄大な趣が強く、内
側から力がほとばしり出す
ような筆勢を示している
(図版③A)。中央から後半
にかけて次第に書風が、や
や定型化してくるようである(図版③
B)。巻末の紀年を記した一行は、前
半部に近い伸びやかな趣に戻っている。
左頁に示した主図版「一」「祭」の二
字は、前半部の力溢れる、雄大な趣の
最たる文字を選んだ。

次回は、「徂徠山摩崖」です。この
欄に関するご批評、ご意見、ご希望、
ご質問などをお聞かせください。私宛
に直接メールで、また編集部宛にお送
りいただければ幸いです。

雲峰山摩崖刻石のなかで最もスケールが大きいのが、「論經書詩」である。図版②の全形拓本は、縦横の最大部分が、ともに三メートル余りである。整拓本を広げるとその大きさに圧倒される。全体で二十行、巻頭から九行目まで次第に字数が多くなる。十行目以降は、行あたり二字を数えることが出来る。末行は、紀年を記すのみである。近年は、観光で自由にこの鄭道昭の摩崖刻石群を見に行くことができる。「論經書詩」の原石は、やや左側に大きく傾いている。恐らく古い時代に発

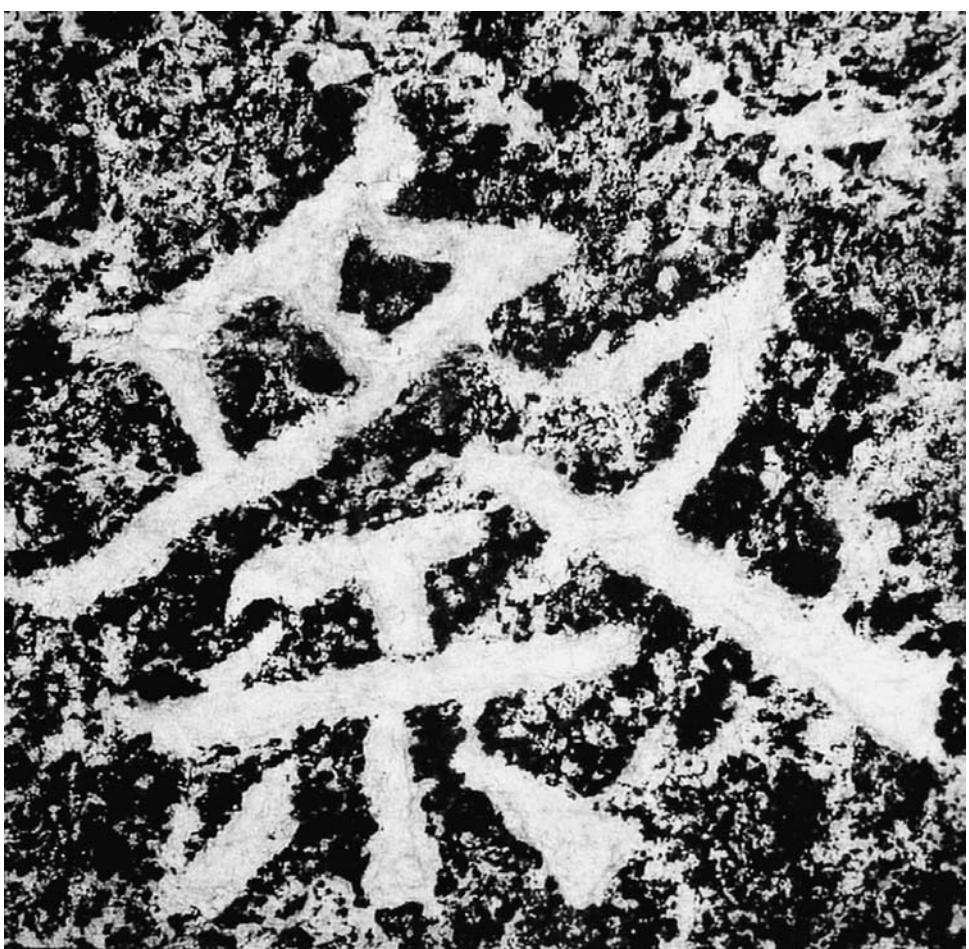
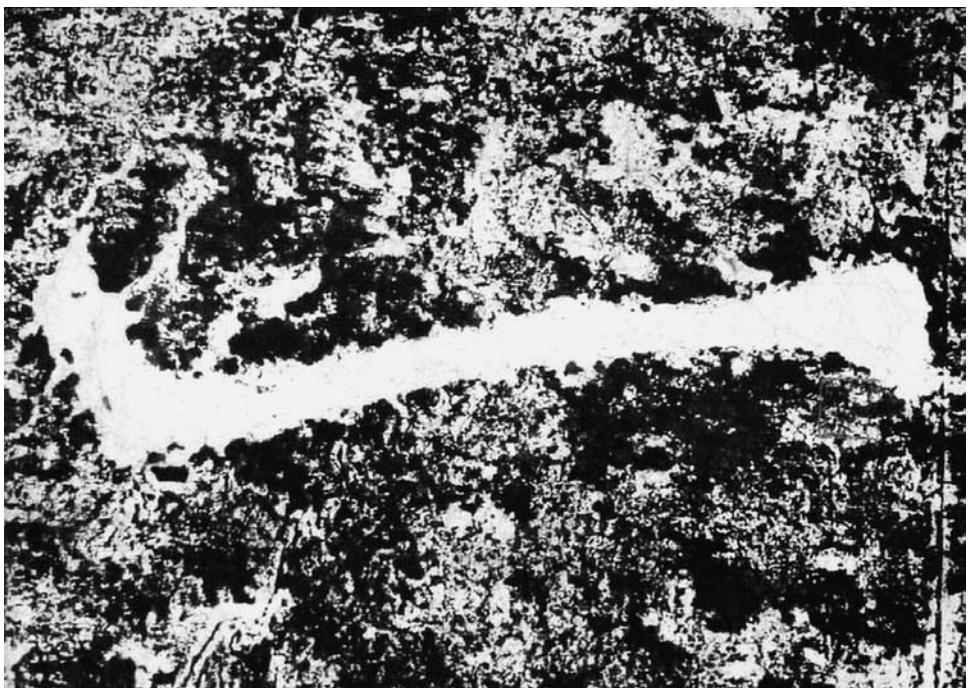
B



A



図版① 「やや繪」



書道芸術院 平成の群像 (2012)



名越蒼竹書

名 越 蒼 竹



「客観性の上に乗った個性の表出を」

大学書道科で専門的に学ぶようになるまでの、私の書に対する見識や力量は狭く浅いものであった。まさに「井の中の蛙」状態だったことが入学直後

に判明したのである。それでも先輩や仲間たちにもまれているうちに、何とか一緒にやっていけるかも知れないと思うようになった。そこで教訓として残ったのは、とりあえずは樋野を広げておくこと、好きな書風や書体を深めることよりも、まずは多くの古典に触れてみることの大切さである。

その一方で、善し悪しの判断はともかく、好き嫌いの感覚も大切にする必要があるということも理解するようになった。そうしなければ、周りからの声で全ての価値判断が相対化してしまって、自分を無くしてしまっからである。

こうして手を広げつつ自分の好悪感覚に従っているうち、好惡はゆっくりと変化していく中で、目指す方向は次第に収斂していくものであることが分かつてきた。目が肥えてきたと思ったところではある。

しかし今の私には、思いや感情といいう主觀を前面に出して作品化できるほ

どの力量はまだ備わっておらず、いかに客観的に納得のいく作品を構成できるかが課題であると思っている。「上手い」と言われるだけの作品が良いわけではないことを百も承知の上で、それでも今はまだ「上手さ」を追求しなければ、底の浅い自己満足の世界で終わってしまう危険性を自覚せざるを得ないのである。

もちろん最後まで今の考え方で良いとは思っていない。次々と脳裏に浮かぶアイデアを瞬間に筆墨に乗せて、あるいは無心に筆を揮った結果としての、客観性ながら個性を表出させた書を残せたら幸せだと思う。王羲之の「喪乱帖」や顏真卿の「祭姪稿」、鈴木翠軒の「醉客滿船」などのように。

そういう意味で、掲載の写真作品（この稿を書いている直近の作）は情も足らなければ意も行き届いておらず、今の自分の現実をまざまざと突きつけられる思いがして、恥ずかしい。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第65回記念書道芸術院展開幕へ

いよいよ今月7日から創立65周年記念展が開催される。東京銀座セントラル美術館、東京銀座画廊美術館での中央展を皮切りに、奈良で西日本展、仙台で東日本展と分散開催であるが、記念展にふさわしい意義あるものとしたい。今回は中央展での特別企画についてお知らせ申し上げたい。

◎書道芸術院物故者遺作展示

5年ごとの節目に歴代会長のほか、過去5年間にご逝去された本院審査会員以上の方々のご遺作を展示させていただく。

◎東日本大震災復興支援キャンペーン「雄勝硯伝統工芸士による雄勝の現状紹介と即売会」

昨年3月の大震災により東北地方は

大変な被害を被り、現在復旧、復興に向け努力中である。本欄608号にてご報告申し上げたが、宮城県石巻市雄勝地区の雄勝硯製造伝統工芸士、高橋頼男氏に本展開催に合わせお出でいただき、

生産販売協同組合提供の硯石ほか物品を展示即売していただく予定になつている。



瓦礫の中から集めた硯などを洗浄する職人さん。
(被災の雄勝出張所にて)

第43回毎日現代女流の書100人展

前号でご案内のとおり、本年も毎日現代女流書展が開催される。昨年から会場が日本橋高島屋に変わり、会場の雰囲気も一変した。100名の選抜はかなり厳しく、運営委員以外は連続出品は原則認められず、選考委員による投票を中心決定する。さらに新しく審査会員に昇格された方々の発表で、新鮮かつ氣力溢れる展示となつた。

*会期 1月31日～2月6日

大人から幼児まで楽しく 「日本童謡の書展」にぎやかに

故種谷扇舟先生が提唱された本展は、白扇書道会（種谷萬城理事長）が中心となつて日本童謡の書協会を設立、本年23回展開催と宮々と継続発展してこられた。

日本人の心のふるさと、大人も子供も共に一緒に口ずさむ童謡の調べは、我々の心をやさしく癒してくれる。こゝの童謡だけをテーマに、大きさも役員を除いて普段着の半紙サイズのみ、文字ばかりでなく絵入りや色彩の表現も引き続き行われた祝賀懇親会も和やかで、特別賞受賞の由紀さおりさんの生演奏のハプニングもあり、各界の名士、多士済々で大盛況であった。

我が書道界にとり大きな収穫であり、石飛博光先生の今後益々のご活躍、ご健勝をお祈りいたしたい。

*雄勝硯・物品展示即売会

日時 2月10日（金）午後より
2月12日（日）まで

会場 東京銀座画廊美術館（8階）

い。事実本展に寄せられた多くの作品は、皆心楽しく、歌いながら表現したものばかりのようである。大人と子供の作品の差はほとんど見られず、とうより子供の純真な表現に大人は太刀打ちできていないうようである。

今回展に応募された多くの作品が昨年の大災害を乗り越え、今年こそは明るく良い年をと願う気持ちを込めておられるようである。会場は少々遠いが是非ご高覧を。

年の大災害を乗り越え、今年こそは明るく良い年をと願う気持ちを込めておられるようである。会場は少々遠いが是非ご高覧を。

*会期 2月14日（火）～19日（日）

*会場 千葉県立美術館

石飛博光さん毎日芸術賞に輝く

昨年7月東京銀座画廊美術館で開催された「石飛博光書展」が高く評価され、本年元旦に毎日新聞紙上で発表されたことは皆さん既にご存知のことと思ふ。

1月25日（水）東京会館にて晴れの贈賞式が、多くの参列者の集う中、盛大に行われた。恒例の受賞者スピーチは、各受賞者それぞれ含蓄ある素晴らしい内容で、またユーモア溢れるもので喝采を浴びていた。

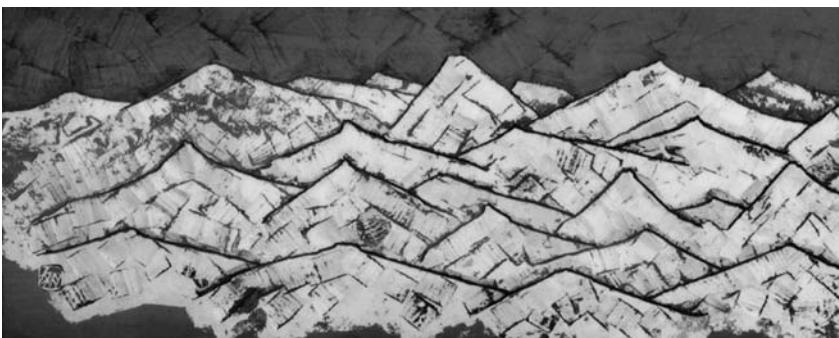
我々のできることはささやかだが、少しでも支援の輪を広げたいとの思いから企画した。多くの皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。会場には雄勝の皆さんへの義援金募集も行う予定である。重ねてご協力を。

自由とあっては、楽しくないはずはない。

刻字(五)

小山鳳来

いざ作品を創作しようとする時、何をどのように表現したいのか。今の自分



書道芸術院秋季展出品「疊々」

小山鳳来刻

をどの文字に託しどう作品にしたいのか、頭の中では漠然と判っている様で現実のものとして出来ない。

私は時折、散歩に出る。歩くコースは決つていて、従つて歩きながら眺める景色も変わらない。中学校の校庭に副つて北から南に続く道があり、道の西側には一面の田園が広がり、その果てに遙か吾妻連峰の山々が北から南へと連つている。

いつも見慣れている山々だが夕陽を背にしたその日の山々は何かが違つていた。と言うより自分の想いの何かが普段と変つていたのかも知れない。

突然「山」の字を思い連なる山脈を見直した。古文の「山」が浮かんだ。まさにこれだこれが「山」なんだと衝撃が走った。帰つてすぐ筆を取り揮毫し刻つたのがこの作品である。題名は重なり連なる山々から敢えて「疊々」とした。

これが書?かと批判は承知の上で。しかし現実の山と山の文字とが交錯した時、これこそが山だと筆を執り刻り上げたこの作品は私にとっては大切な書作品の一つである。

漢字(五)

加瀬澄春

21世紀の書

—私の主張—

今月は書風について触れてみます。書風とは古典の面影を残しつつ自分の作品を作るという事でしようか。

我が師は明の瑞岡調の作品を数多く発表されていました。当時この書風が出来るまでの経緯をよく話してくれました。一師の自伝よりの抜粋

今から何年前か、芸術院展の会場で瑞岡調の作品に深く感動して、ああこれだと心に決めブロマイドを買い求め早速取りかかった。先づ瑞岡の作品集参考書指導書を集め先生(扇舟先生)に相談し助言をいただいた。学

校の勤めの傍ら無茶苦茶臨書に取り組み夢に見る程書き込むといつか筆法が判ってきた。『臨書百遍、意自ら通ず』である程度字形が整うと次は作品制作へ、しかし三位は掛かったか。先生にお見せすると「これで良いです。これからは瑞岡調でおやりなさい。」とお褒め激励された。一とあります。扇舟先生もこの瑞岡作誕生の過程を作りの基本として時折引き合いに出されました。作品が出来るまでのプロセスは、ただ努力、我武者羅も必要でようか。しかし弟子の私達にはこの古橋流は全く伝授されなかった。『菊根分け、やがて自分の土で咲け』という事でしようか。写真は31回書道芸術院展に出品された師の作品です。



第31回書道芸術院展出品

古橋飛山書

現代の書 新春展

今いきづく墨の華

(2012)

主催：毎日新聞社・財毎日書道会

和光ホール30人展 2012年1月5日(木)～10日(火) 銀座・和光本館6階

セントラル美術館 2012年1月5日(木)～10日(火) 東京セントラル美術館

〈和光ホール30人展〉

「心」

恩地春洋



68×117cm

「床の間の」片山由美子の句

辻元大雲



116×113cm

〈セントラル美術館会場100人展〉

「立」

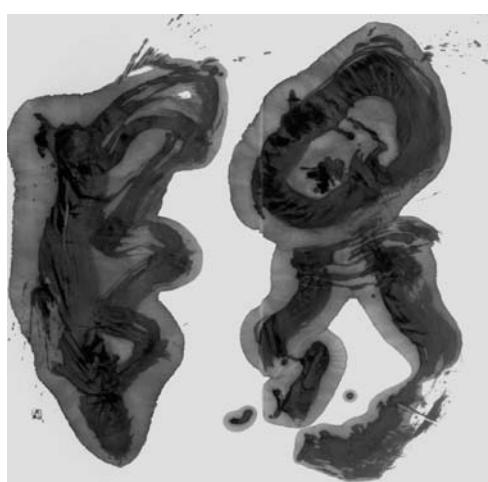
香川倫子



122×180cm

「陽」

大野祥雲



148×146cm

小竹石雲

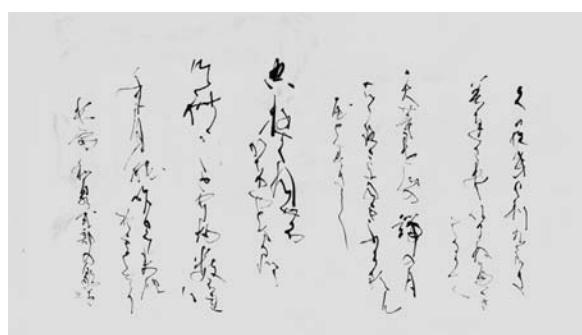
香川倫子 楷書の秋葉の詩



「出会いの一瞬」

115×173cm

下谷洋子

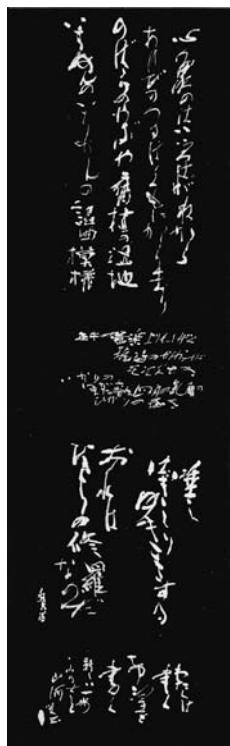


「恋うた」和泉式部

91×150cm

特集：現代の書 新春展

「私は書く＝希望と書く」
宮澤賢治（春と修羅）と自作
2011



231×70cm

「洒心」(サイシン)
板垣洞仙



165×112cm

浜谷芳仙



「佛」BUTU

119×180cm

「初雁」長谷川櫂の句

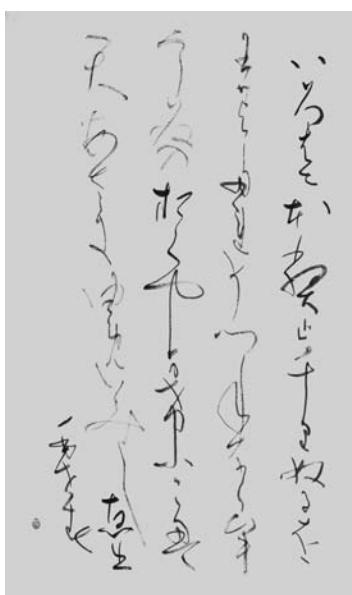
砂本杏花



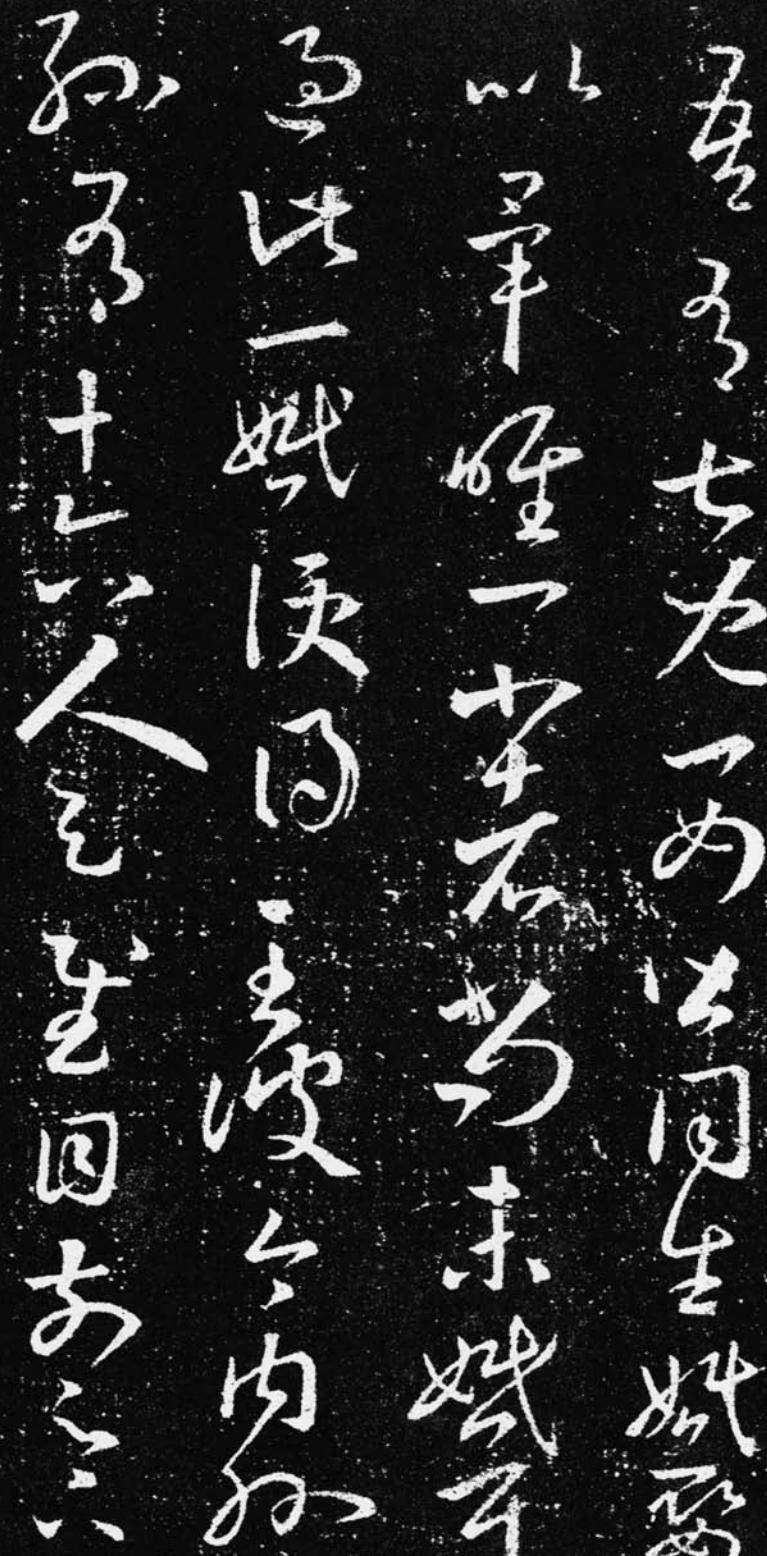
135×105cm

「いろはうた」不詳

石井明子



151×91cm



〈解説〉

十七帖は独草体とよばれ、一字または二字が落ちついて書かれている。一字一字独立してはいるが、最後の点画から次の字の第一筆へ自然に筆脈がつづいて、いかにも洗練された技巧に清澄な風韻をたたえている。

る。

十七帖には揚本というものが残っていない。わずかに刻帖による法帖に限られているのが残念である。

(編集部)

吾有七兒一女。皆同生。婚娶以畢。唯一小者。尚未婚耳。過此一婚。便得至彼。今内外孫有十六人。足慰目前。足下

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

かな研究部 山家心中集（云西行）②

特別研究部臨書課題

= (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

<よみ>

おしなべてはなのさかりになりに
けり山のはごとにかゝるしばらくも
よしのやまこすゑのはなをみし
日より心はみにもそはずなりにき

あくがるゝこゝろはさて山ざくら
ちりなんのちやみにかへるべき
はなしそむこゝろのいかでのこりけむ
すてはてゝきとおもふわがみに

※落款を必ず入れる。署名、
もしくは〇〇臨

(押印のみも可)

上古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
用紙
・半紙普通判(料紙可)
〈たて長に使用〉
※別紙を裁断して貼付也可。
・半懷紙は、半紙サイズに切つて使用のこと。

(原寸大)

〈解説〉

山家心中集には、今回掲載部分のよう
うに、歌の右肩にところどころ漢字で、
千・新・勅・続などと集付されている。

千「千載集」

新「新古今集」

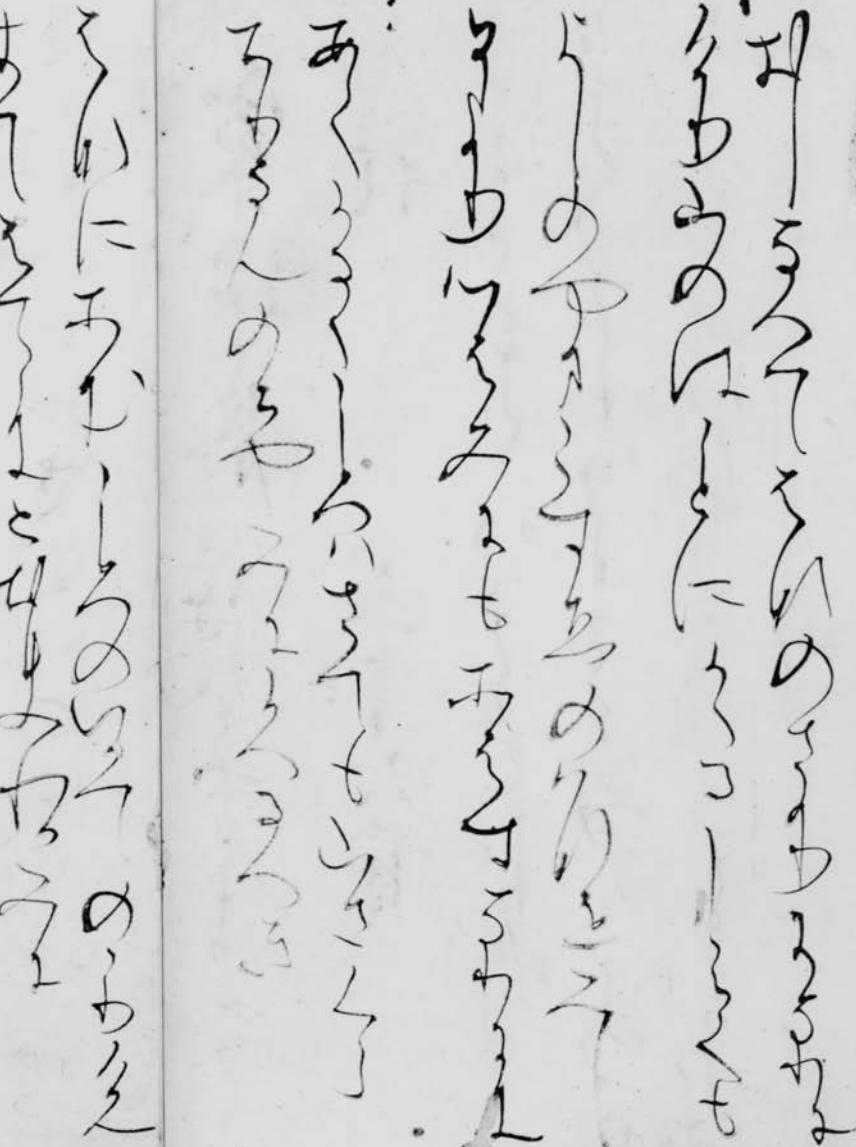
勅「新勅撰集」

続「続後撰集」

これはその歌が、勅撰集に入っていることを示すものであり、また、やはり歌の右肩に墨点などの記入も見られるため、草稿本であったとも言われている。用紙は薄手の鳥の子紙のため、裏面の文字が透けて見える。

書風は三種類で三人の寄合書とされるが、平安朝かな名跡選集の解説においているのはこの中の第一種(名蹟選集の初めから五頁まで)であると述べている。単純な線と形できびきびと動き、利などの終筆を鋭くはねるのが印象的である。

(編集部)



習い方解説 (五)

辻元大雲

冬晨雪明峯（陳高）
(冬晨雪峰を明らかにする)

冬晨雪明峯を明らかにする

今回から五文字です。冬の時候に合わせ、雪のあがった朝の峯のはれやかさの意です。

行書単体表現でまとめてみました。楷書あるいは隸書表現もいいたしません。四字句と異なり、枠にはまって固くなりがちですが、文字の大小、潤渴の変化などいろいろ工夫してみましょう。

「峯」は「峰」の本字で、古いものとの形の字ですから同じように使って構わないと思います。書道芸術院創立の功労者香川峯雲先生の「峯」はこの形です。名前など固有の表記の場合は混用しない方が良いと思います。

峯雲先生といえば斬新な篆刻と刻字です。篆書の字形を明るく近代感覚溢れた素晴らしい作品を数多く残してくださいました。

冬晨雪明峯 よみ（冬晨雪峰を明らかにする）陳高

書体＝自由



習い方解説(五)

飯田春香

萬里寒光
(祖詠)
(万里の寒光)

今日は墨について考えてみましょう。濃い墨は筆先のまとまりもないし筆勢が出やすく強い線が出来ます。また白と黒がはっきりして明確な表現が出来ます。

「萬」草かんむりの筆順に注意。

1
2
3
4

「里」ヨコ画は均等にやや右上がりに。

「寒」ウカムワリを広くし、左右の払い、最後の二つの点で中心を決めましょう。

「光」一画目のタテ画をしっかりと決め最後の右ハネをゆったりと大きく空間を取りましょう。



萬里寒光 よみ (万里の寒光) 祖詠

書体=楷書

春やけふきららに光りかすむ
日の空より花のこぼれつづくる

(太田水穂)

まやまや、まほして

まやまや、まほして



多くの方が既に経験済みと思いますが、書く題材がすんなり決ったときは比較的、作品もスムーズに仕上っていませんか。仕上げまでがあまりに困難が多いときは、題材を選び直す勇気を持つて下さい。快い文学鑑賞の途中でイメージが創られるのです。寄せる思いが作品の完成度を高めていきます。美しい言葉、好きな言葉を書きながら、言葉にならなかつたものを掬いあげていくかな表現は、私の目標とするところです。

古歌と現代短歌の書き分けは、気になる問題ですが、空気感や呼吸の違いはせめて認識したいものです。

太田水穂(一八六七—一九五五)は長野県生、芸術院会員の歌人。短歌、歌論、研究書等多数。

よみ方

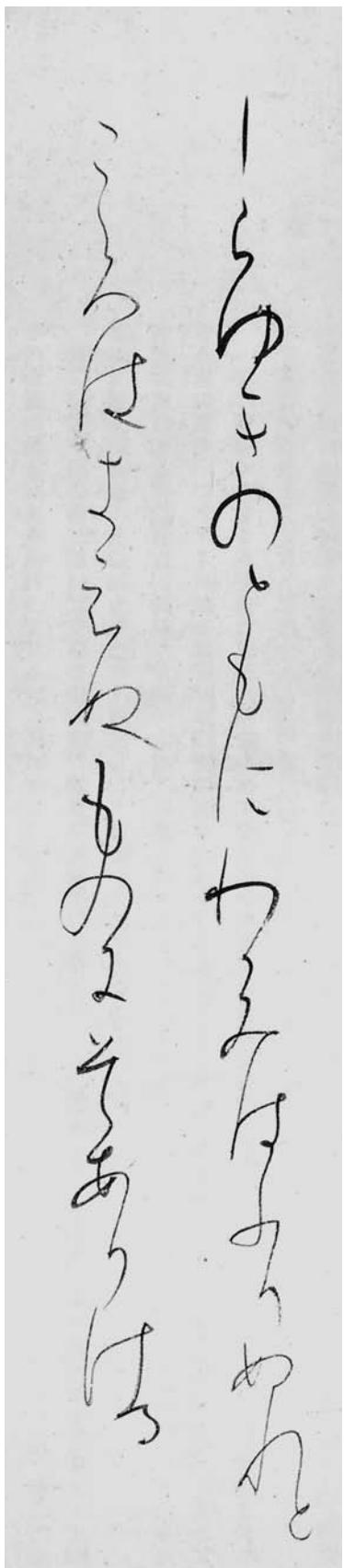
春や(也)け(希)ふき(支)ら(羅)ら(ム)に(イ)ひか(可)りか(可)す(須)む(无)
日の(能)そ(曾)らより花のこぼ(本)れ(運)つ(ム)く(久)る(類)

創作

かな規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



かな条幅規定【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

大辻多希子選書

習い方解説 (二)

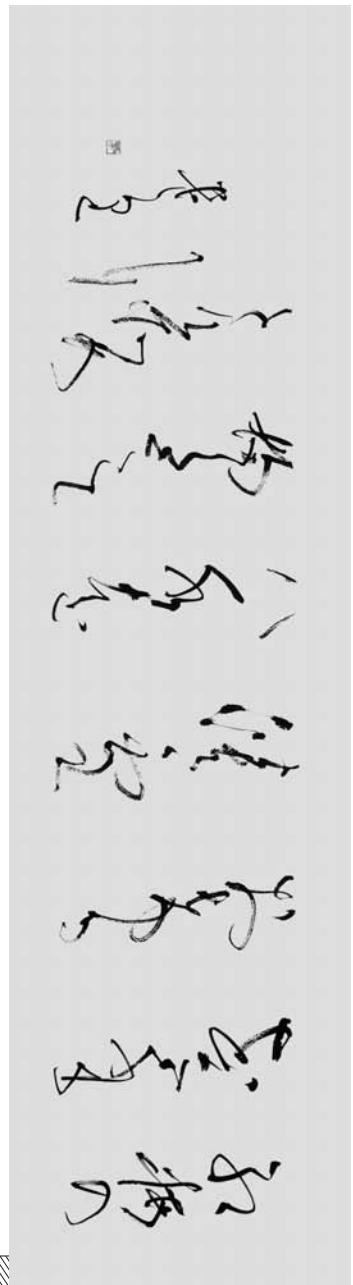
大 辻 多 希 子

紅梅の花にふりおける淡雪は
水をふくみて解けそめにけり

(島木赤彦)

大字の横作品を構成する時、文字の長短が並ばないよう各行の字數に配慮します。文字は垂直に立つのではなく、左右に傾きながら

よみ方 紅梅の花に(一)ふり(利)おけ(希)る淡雪は(八)水を(遠)
ふ(婦)(久)み(二)てとけ(介)そ(所)めに(耳)け(遣)り(里)



創作

出品券
貼付位置

*よこ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

竹田尚堂選書

竹田尚堂選書

習い方解説 (五)

竹田尚堂

柳無氣力枝先動 池有波紋冰盡開
三月十五日締めきり

あさひ

白居易「府西池」

書体＝自由

柳無氣力枝先動 池有波紋冰盡開
(柳氣力無くして枝先ず動き、池波紋有りて水尽く開く)

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小浜大明選書

習い方解説 (五)

小浜大明

竹影掃階塵不動 月輪穿沼水無痕
輪穿沼水無痕 大明書

「竹の影がぎざはしをはらって
も、塵は動かない。月の姿は沼に
うつっても、水に痕跡をとどめな
い」の意味です。

細目の線で、リズムを大切に書
いて下さい。

今回は文字の大小、長短に変化
をつけてみましたが、あまりやり
すぎない様、全体のバランスを考
えてデフォルメして下さい。

竹影掃階塵不動 月輪穿沼水無痕
(竹影階を掃つて塵動かず、月輪沼を穿つて水痕無し)

(菜根譚)

書体＝自由

「微かな春風に動き始める柳や
水が消えた池の水面のさざ波とい
て来た」と天の運行の正確さの驚
きと、春を迎える喜びを詠んでい
ます。自然の営みへの白居易のや
わらかな眼差を感じます。
余白を広くとり、吊り上げ気味
に、緩まないよう心して筆を運び
ました。

習い方解説 (五)

見越雪枝

今回は、頂いたご案内の返事を課題としました。

行頭、行尾をそろえ、漢字は正方形、かなは、あ、い、う、え、おのように、横幅や縦幅を考慮すると、読み易く美しく見えると思います。

文章がある程度長い方が、字間、行間が埋まるので、安定してみえます。隣の字との響き合いも大事な事と思います。

(かなの場合、同じ長さや幅の字形は並べないように、並んだ場合は、しをしなど、のばしたり縮めたりすると形成が変化します。)

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

雪枝書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

前号・609号
手本 1月号

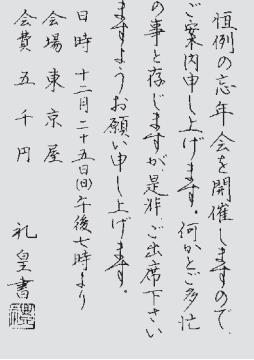
祝・祈 → 祝・祈
又は
祝・祈

今月の

ホープ作品 各部総評 No. 608

ペン字部 師範 谷 礼皇

メリハリのある立体感のある作品になりました。細部まで作者の気迫を感じます。更に精進を。(鄭街評)



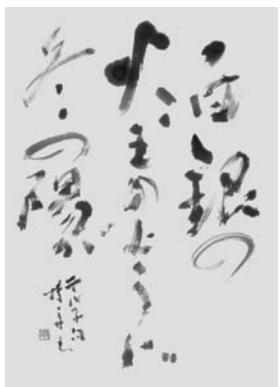
漢字条幅部 師範 奥野 佳泉

細線を主とした木簡調で、最後の「華」の終画を印象的に魅せて成功した。軽妙さに深さを期待。(大雲評)



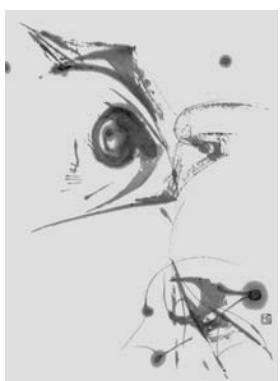
現代詩文書部 特選 戸村 博舟

氣宇雄大に運筆され、闊達な動きのなかに叙情性を感じる作品。落款も手慣れ落着いた線で見事。(石雲評)

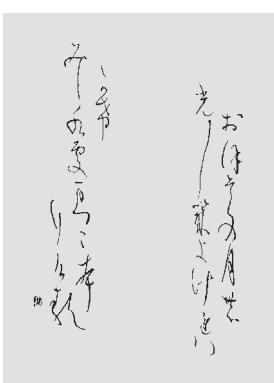


かな条幅部 師範 生田由美子

柔らかく独特的な筆致が、句意と調和的で、穏やかな墨色と相俟て生方ワールドを見事に完成させた。



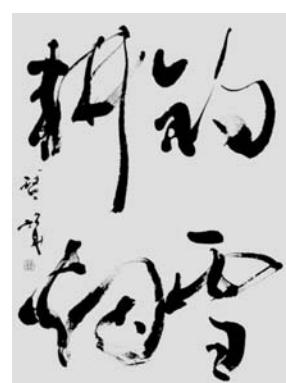
◎かな条幅部 総評 書き出しはよいのに、下部が急に重い作品が多く残念。二行の部分のかみ合せの字形と墨量の工夫を。(明子評)



前衛書部 特選 上路 彩炎

リズミカルな細線は上下を運動させ、明るく上品な仕上りとなっている。センス抜群の傑作。(光昭評)

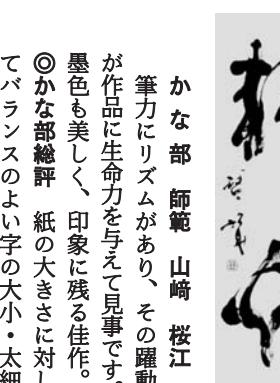
漢字部 師範 島貫 翠燁
軽妙な筆法が生み出した、柔軟で表情豊かな、情趣に溢れる線が魅力的で、極めて上質な作品です。様々な書体、書風の文字が学べる宝箱です。(萬城評)



かな部 師範 山崎 桜江

筆力にリズムがあり、その躍動が作品に生命力を与えて見事です。墨色も美しく、印象に残る佳作。

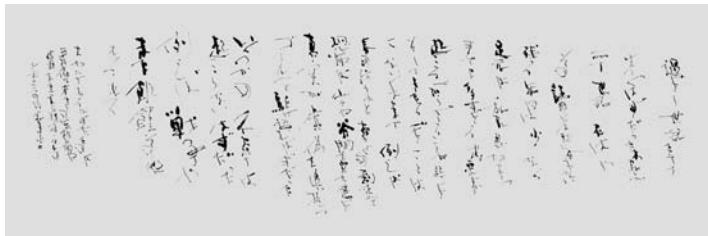
◎かな部 総評 紙の大きさに対しバランスのよい字の大小・太細があります。参考手本と同じ字粒では貧弱で冴えません。(洋子評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

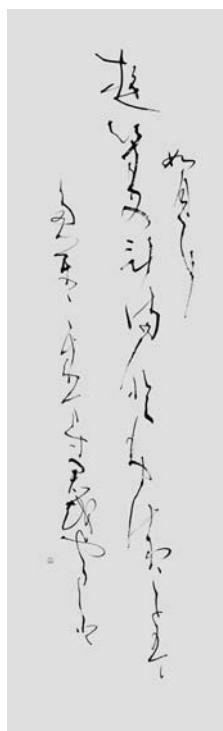
佐藤華炎書



60×180cm

- ◆思わず口づさむように濃墨とかすれを場所を得て表現されている。細線の切れるような線が魅力的。
- ◆チエンバロを奏でるような音を感じさせる作品、構成も後にゆくにしたがって高まってゆく構成も可。
- (倫子評)

(倫子評)

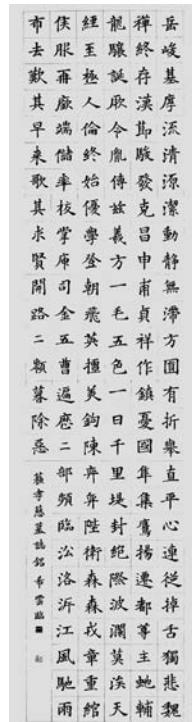


174×53cm

前田まさ美書

か な (卯月) 前田まさ美

- ◆リズムよく流れで美しい。緊張感のある線で表現しながら、気負いなど感じさせないのは見事です。
- (明子評)
- ◆手なれた構成で無理なくまとめている。魅力ある作品は安定感のあるものからは生まれない冒險を。
- (蒼玄評)
- ◆筆先のよくきいた鋭い線、全体の動きで表現された線質は作品の流れを一つにして効果的です。
- (倫子評)
- ◆台湾画箋系の素紙を使用して、厳しい渴筆のリズムを生かす。切れ味鋭い運筆が小気味よい作。
- (大雲評)

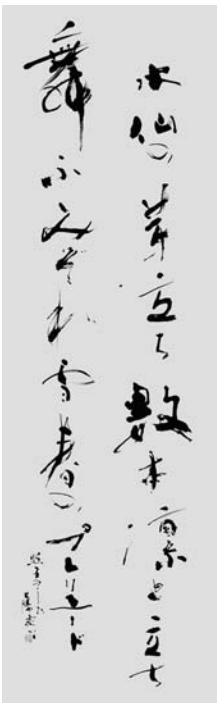


136×35cm

- ◆一つの流れに乗って筆を最後まで慎重に運ぶ心、その心が全体に表われていて清々しさを感じる。
- (倫子評)
- ◆墓誌銘の端正さ、緊張感をよく表現している。全体のまとまりもよく安定感あり。緻密、沈着の作。
- (大雲評)
- ◆線の確かさは群を抜く。淡々とした中に呼吸も感じられるが素朴な表現はこの作品とは反対のものか。
- (蒼玄評)
- ◆搖がない美しさを湛えています。観察眼の鋭さ、タッチの織細さ、安定した心の何も欠けていない。
- (明子評)

臨書 (大雲) 佐藤希雲

「蘇孝慈墓誌銘」



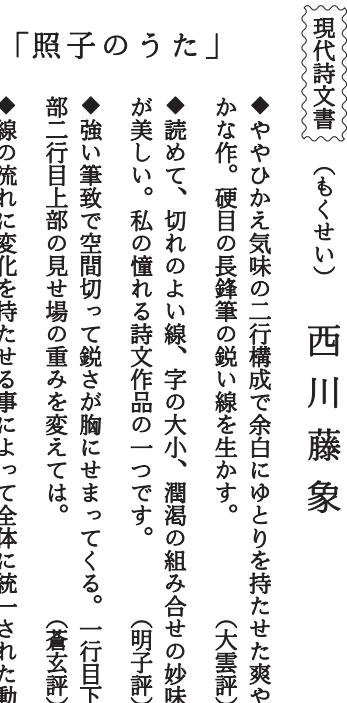
西川藤象書

172×53cm



江本興舟書

180×60cm



家
木原尚子書

99×88cm



衛書 (四谷)
木原尚子

「跡」

◆ 読めて、切れのよい線、字の大小、潤渴の美しい。私の憧れる詩文作品の一つです。

—された動
(倫子評)

◆ややひかえ気味の一行構成で余白にゆとりを持たせた爽やかな作。硬目の長鋒筆の鋭い線を生かす。（大雲評）

(大雲評)

「五言二句」



(大雲)

◆墨の黒さが紙の白とびつたりとした表現、実に見事。力強さの中に一寸落ちついた息使いも効果的。

◆たっぷりと豊かな線質が大きな広がりを醸し、スケールの大さな作となつた。全体のバランスもよい。

◆清楚な方の力作に接し、人の多面性や奥深さを思わせられた。油断せず作品に向き合わねば……。

(大雲評)

(明子評)

◆たっぷりとした筆使いで雄大さを感じさせる。技巧も大切だが、作品は人そのものの表現なのだろう。

(蒼玄評)

(大雲評)
わせられま
(明子評)
功も大切だ
(蒼玄評)

八街
川嶋
里美
森田
華祥
藤谷
「かな」
卯月
新谷
嵐泉
志引
鈴木
朝夫
「現代」
うる
今閑
心華
大雲
松永
香秋
神谷
雲卿
「前衛」
月華
中塩
朱華
青蓮
西家
留

◆とつとつと心に語りかけてくる。どっしりとした中に右の空間が軽やかさを表出して重厚でいて明るい。(蒼玄評)

◆微妙な濃淡の変化が、ふつゝらと厚味ある筆触で醸し出され、大胆な余白と共に広がりある作。

創作の部	(52点)
漢字	— 14 点
かな	— 5 点
現代	— 16 点
篆刻	— 1 点
前衛	— 16 点
書の部	(25点)
漢字	— 23 点
かな	— 2 点

創作の部(52点)	
漢字	14点
かな	5点
現代	16点
前衛	16点
篆刻	1点
臨書の部(25点)	
漢字	23点
かな	2点
総出品点数 75点	

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



佐野 静城

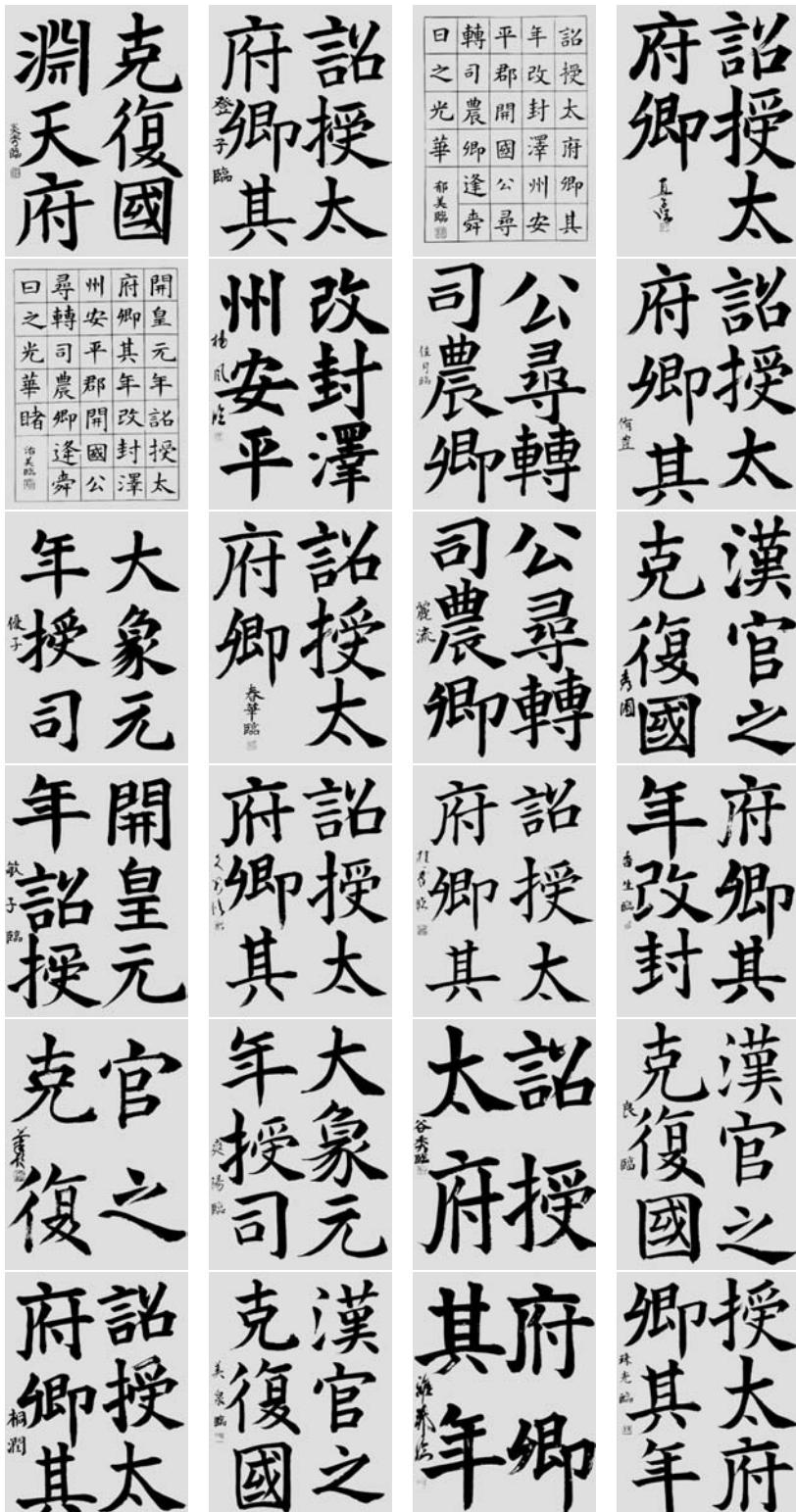
漢字研究部 特選 佐野 静城

この作品、達者な落款を含め、ゆとりのあるまとめです。各文字の結構についても法帖の特性を理解した上で運筆。従って、起筆の角度、点画の方向、転折の切れ味、穂先の使い方など、さっぱりとしてよく整っています。

◎漢字研究部総評

課題は点画が鮮明で判かりやすいためか、

- 字形はよくても、線が弱いと味気無いです。
中でも多字数細字の臨書には感心しました。
ながら、蘇孝慈のよさを身に付けて下さい。
- 一点一画に気を取られ、点画が切れ切れにならないよう。氣脈の貫通が大切です。
なお、注意してほしい点もあります。



桐菊敏 優治炎

美爽久春楊登

雅谷桂麗佳郁

珠良香秀侑直

潤枝子子美秀

泉陽光華風子

邦秀香流月美

光子生圃豊子

かな研究部
(粘葉本和漢朗詠集)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



幹 蓉寿

智 真清

温 幸紫

玉 蘆炎

生 汀子

廣 理耀

子 苑蘭

華 城秀

千大洞高も澄
葉阪書崎く春

蘭た春A清大は佑竜蓮石秀う小A紅東大N澄広幕如竹椿
鼎か光I月雲せ希泉紅習水る汀I瑠実雲H春島張月属翠

特選

飯飯安新新阿

川岩高藤小河長田森遊犬門飯永伊鉢吉磯川高熊林金山岡

田

田藤井天坊

崎田橋村林合谷中田佐銅脇高瀬藤木田貝田橋谷

子村田

光恵楊知藤洗

喜優春久昌嘉と久梢龍紅道信幹蕃寿智眞清温幸紫玉蘆炎十

夜

彩秋風枝雪草

優春子江敬子翠博雅石子生汀子廣理耀子苑蘭華城秀夜

玉蘆炎

上も調硯澄高千正道上遊北澄秀五秀竜紅竜百英高

大こ玉こ高A昭東前澄千
泉く布水春井葉華 泉雲陸春水葉水泉瑤泉谷峰崎

雲

山森武宮宮松松

西西浪富都寺高須鈴宍佐酒高黒加小大梅生土薄確井猪

猪

縣田藤澤内田重岡井田澤岡川澤丸澤橋田木戸藤井武柳藤川石山野田井野又

由元

元

令藤蕙草幸代翠律知陽彩悦秋惠ど悟雅香利谷桂玄竹翠彩星久美華春

子谷陸秋平子景子一峰子花子り泉舟子秀香子城葉陽香祥子子泉緑絆

香

京橋入

青樹五千高蓮大正春前秀東玉正一艸千森大卯玉有大如誠千湘春童樹蒼大英四幕鬼広譽安高清英秀和

も

峰原葉葉陵紅雲華汀橋水向松華葦玄葉地雲月松秋雲月和葉南汀泉原陽阪峰谷張高島田波井月峰明平く華和泉村

也

東選

吉遊森村前本堀星春花富橋永中中戸東積津田武高関新波佐佐後近込小吉北北神川小小櫻江上岩井板石石浅阿久青木

木

花子

木美 美

寺

治栄子華子雪雲葉子美子香霞枝琴子舟子雲子衣枝豊子光華子子子子江雨子舟子江綏美子夫峰子二竹子雨江華子

也

竹澄や樹京翠館椿調こ東筑蘭若詢昌生正四生生蓮梓廣福生竹大竜華広大松玄秀筑声た石澄紳久青高誠竜千正生岩

大椿上千美春ま原橋山翠布だ光桜鼎葉扇苑大華谷大大紅江島山大扇阪泉祥島阪波穹明桜香か習春玄賀峰真和泉葉華大沼

也

櫻齋齋翁近小小小小工木君木木北菊菊川川川河金加香貝小尾大大遠梅内字植岩岩入今今伊石石生池安荒足

田藤野藤山林林島暮口櫻藤元島原原又池池元本崎上岡藤山林野形森西藤田木瀬潤上谷村閑藤橋駒田藤井立

川

智翠つ遊松閑笙晃雅み祥智く山香桃春輝尚春善玉茱紫綾三星萩龍雅富窓京紅喜一華代皓春如祥泉都悠貴梨英さ

正萩萩代玲万舟香え山春窓洋代子峰子ら房蘭苑翠子子峠高蓮仙美男扇美惠芳子萩代美香子泉華風苑溪子子花泉霞子子花溪子

也

白芳大明昌ふ清華や如松英伸生こ生石澄白山玄椿千や容椿大詢土洞倉帝

春泉大や椿秀た竹英正う生明光松玉正た昌麗八

也

遷露蘭原阪漢苑み月祥ま月村峰玄大だ大習春子王穹翠葉ま洲翠坂扇氣書吉塚

汀会阪ま翠水か扇峰華る大漢昭付松華か苑澤街

也

194渡渡六吉吉吉大山山八茂村官宮丸松増牧前二平平平兵橋野西中中橡渡田田田竹高高高鈴神進新嶋嶋鹿塩椎猿佐佐

名氏邊波田田和崎口木木山田下川山丸田野島上山山田藤木本村澤村江尾子原野中玉森橋井木保藤條

田澤名渡島々木

氏名略重信登筆鶴翠美紀桜律順翠龍珠瑞洋眞愛華優代紫つ彩美玉日都陽瓊寛よ筆紀惠可美哲弓初恵小多佳寿三称由志美幸冬初紫

子漢子玉子綾子江江子子芳峰風弘子翠石秀子子泉子華和泉和子詢美子子興子子三枝子子江泉秋美子子郎子香江紅子華香水

也

かな研究部

特選

岡田

十夜

佳作

60書

也

也

也

也

也

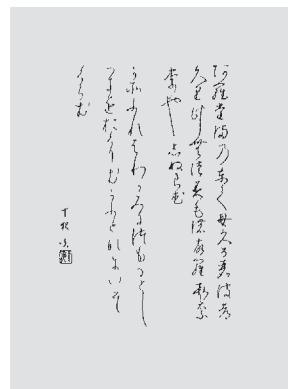
也

也

也

◎かな研究部総評
和漢朗詠の上品で癖のない書風に鋭い線質が加わり、余白・潤渴共に美しく、日頃の鍛錬が窺われる際立った見事な作品です。

総体的に、大変よく書かれた作品が多く見られました。文字の大きさに配慮し、線の流れが出るよう紙は滲み過ぎない物を使用しましょう。



[特別昇級試験臨書課題]

*左記の写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。
掲載以外は違反となります。

九成宮醴泉銘（楷書）

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

承以石檻引爲一渠

其清若鏡味甘如醴

承以石檻引爲一渠
以石檻引爲一渠。其清若鏡味甘如醴。

孟法師碑（楷書）

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

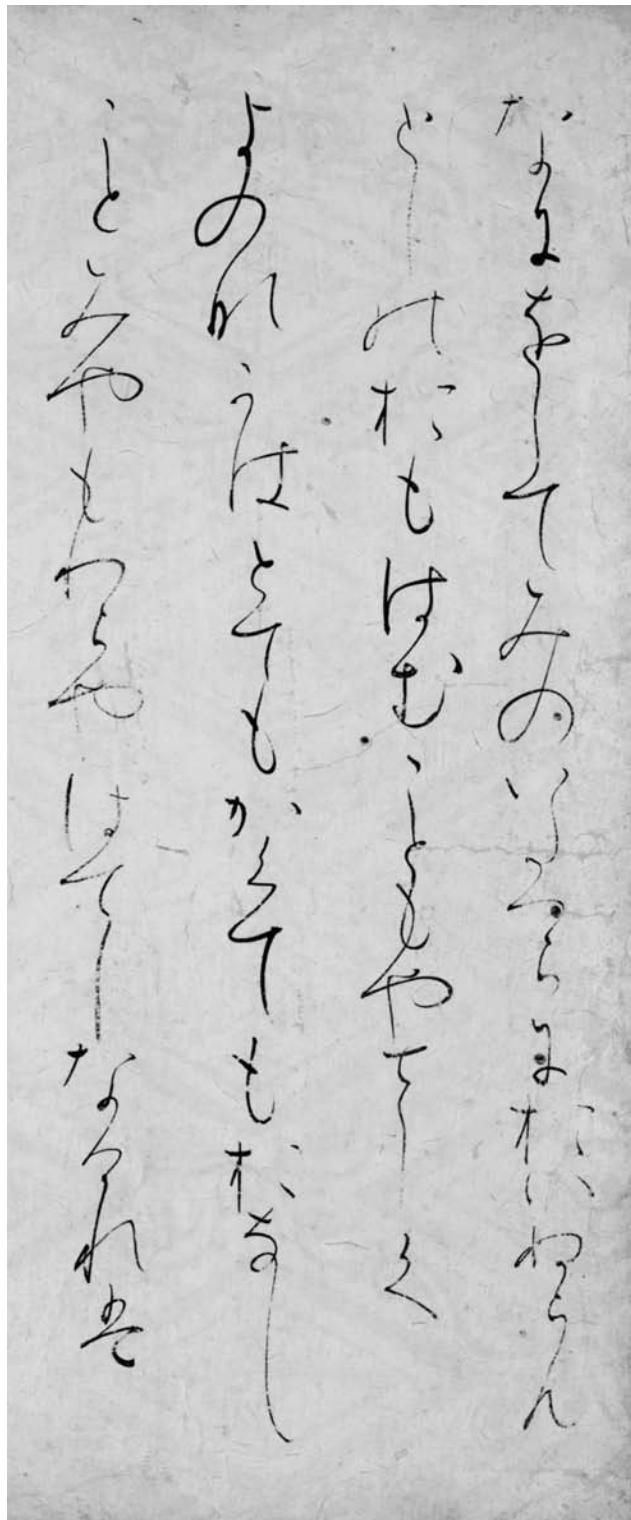
能延頽年於昧谷振朽
骨於玄廬白玉之簡祈

能延頽年於昧谷振朽
骨於玄廬白玉之簡祈

高野切第一種
かな部 第一種

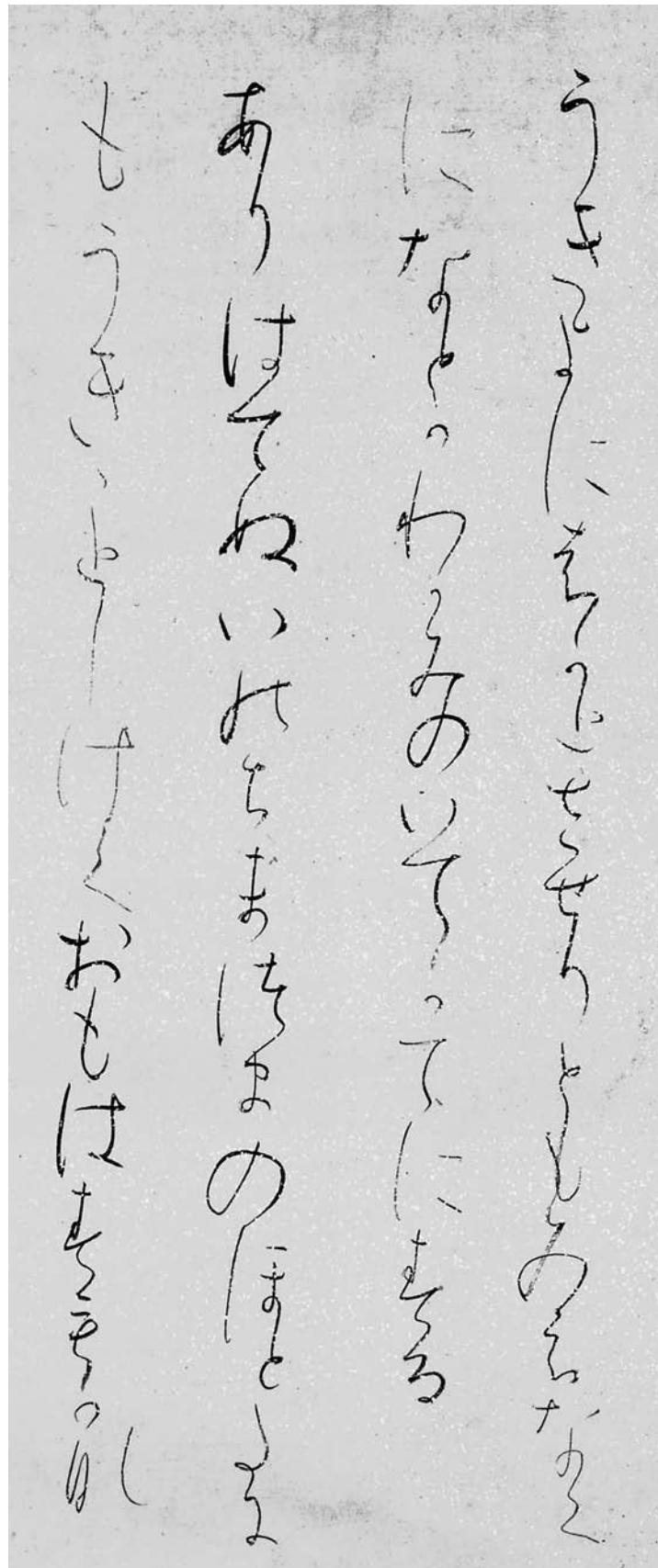
半紙に写真掲載の和歌・二首を書く（料紙可） △93%縮小▽

きみがためはるのゝにいでゝわかなかつむ／わがころもでにゆきはふりつゝ
者爾可
毛爾支不
利徒連曾爾
有久
脱か
久



なにをしてみのいたづらにおいぬらん としのおもはむこともやさしく
よのなかはとてもかくてもおなじ ことみやもわらや (も) はてしなければ

うきよにはかどさせりともみえなく久になどかわがみのい可でがて春にする
ありはてぬいのちまつまのほじ能だに徒多尔春も那がな



(たて 12.7センチ×よこ 12.4センチの枠を
半紙に書いて、その中に書くこと)

(料紙可)

※落款は右枠内でも
枠外でもかまわない

△原寸大

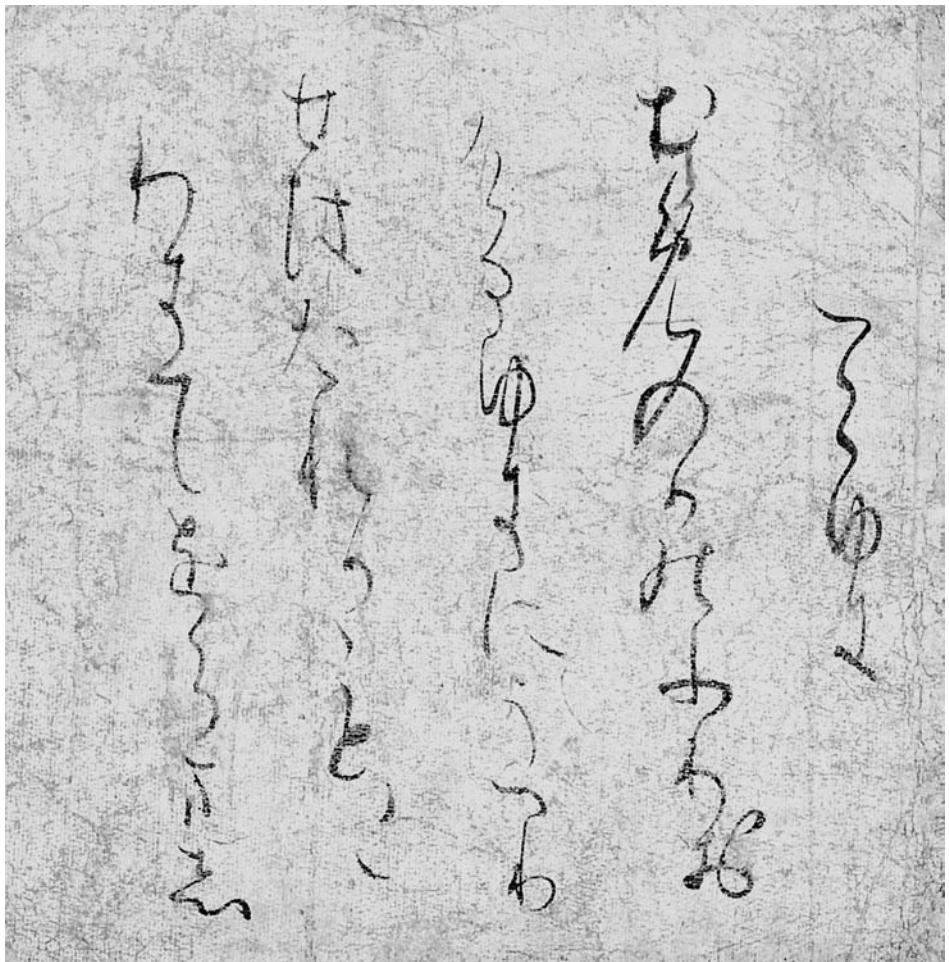
つらゆき 支

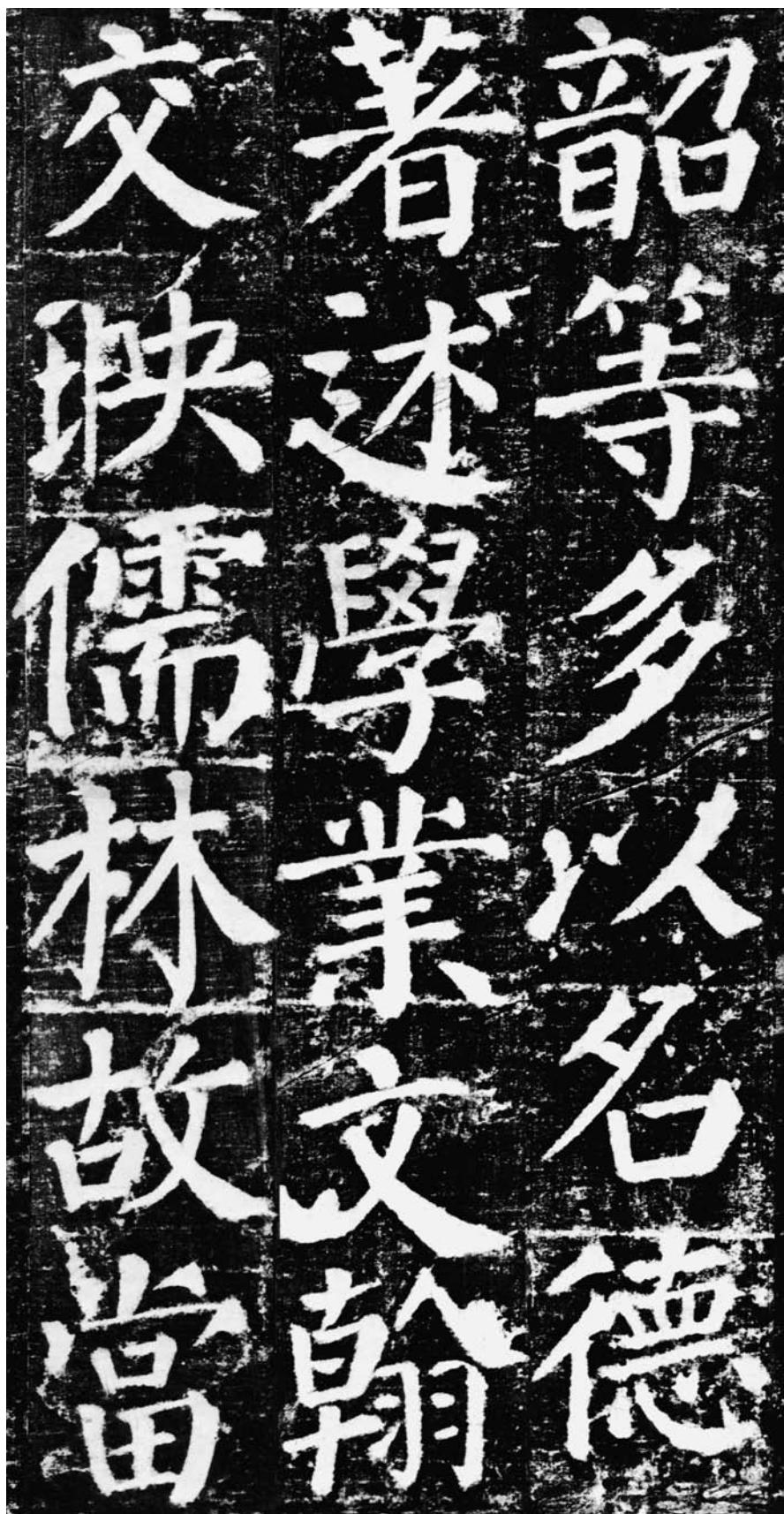
むめのかのふりお

けるゆきにうつり

せばたれかことぐ

わきてをらまし





韶等。多以名德，著述学业，文翰交映儒林。故當

袖也。笏懷貞敏。早悟三空。之心。長契神情。先毫四忍。

之。心長契神情。先毫四忍。

之行。松風水月。未乏比其。清華仙露。明珠誰能方其。

清華仙露明珠。誰能方其。

袖也。幼懷貞敏。早悟三空。之心。長契神情。先毫四忍。
之行。松風水月。未乏比其。清華仙露明珠。詎能方其。

子先ノ子、一通も於もは
其が通ふはれ弱れ生疏
あるふ不文文弱み情性子
へ點画の情性は文弱み情性子
／以二點畫一爲二情性。使轉爲二形質一。

居レ先ニ。草ニシテ不レ兼レ眞ヲ。殆ニ於専謹。ノ眞ニシテ不レ通レ草。殊非ニ翰札。眞以ニ點畫一爲二形質ト。使轉ヲ。爲ス。性ト。草ハ。／以ニ點畫一爲二情性。使轉爲二形質一。